

観光社会資本の事例

テーマ	港や客船を身近に親しめる横浜港大さん橋国際客船ターミナル	
【施設の状況写真】		
		
本格的なクルーズ時代に対応するため全面的な改修工事を行い、2002年6月に新しく生まれ変わりました。	市民の皆さんが港と客船を身近に親しめる施設として多くの方々が訪れ、客船入港時には特に賑わっています。	
【施設の利用写真】		
		
波をイメージした個性的なデザインの屋上広場は、24時間開放され、430mの送迎デッキと芝生の広場が整備されています。	客船の出入港やみなとみらい地区、赤レンガ倉庫、ベイブリッジなど港の景観を一望でき、夜には素晴らしい夜景が楽しめます。	
【観光資源としての利用状況】		
現在の大さん橋国際客船ターミナルは 2002 年にリニューアルオープンしたもので、個性的なデザインと斬新な構造の空間美を持ち、内部は梁や柱がない大空間を生み出しています。また、階段がなく、スロープやエレベーターで移動することができ、バリアフリーに対応しています。		
ターミナルはだれでも無料で入場でき、屋上広場は24時間市民に開放され、客船の出入港やみなとみらい地区、赤レンガ倉庫、ベイブリッジなど港の景観を360度のパノラマで眺めることができます。芝生の広場もあり、のんびりと時間を過ごすことができます。		

テーマ	港や客船を身近に親しめる横浜港大さん橋国際客船ターミナル
<p>【社会資本の基礎データ】</p> <p>名称 横浜港大さん橋国際客船ターミナル</p> <p>所在地 横浜市中区海岸通1-1</p> <p>事業名 港湾整備事業</p> <p>事業主体 横浜市</p> <p>事業期間 平成元年～平成14年</p>	
<p>【社会資本の役割・効果】</p> <p>(横浜港のシンボル)</p> <p>海外からの船客を迎えると同時に、市民が後世にも誇れるような横浜のシンボルとするため、全面的な改修工事を行い、日本を代表する港にふさわしい客船ターミナルとなっています。</p> <p>(横浜の海の玄関口)</p> <p>本格的なクルーズ時代に対応するため、耐震性を強化した岸壁をもつターミナルとして整備され、3万トン級の客船なら同時に4隻、7万トン級なら2隻着岸ができます。</p> <p>横浜港に寄港した大型客船の数は、2003年、2004年ともに日本一の実績がありました。</p>	
<p>【位置図】</p>	
<p>【関連ホームページ】</p> <p>横浜市港湾局 横浜港ホームページ http://www.city.yokohama.jp/me/port/index.html</p>	